

令和7年一番茶情勢について

令和7年4月7日現在
J A 静岡経済連茶業課

1 気象状況

- (1) 気温は、1月、3月は平年よりやや高く、2月は低くなりました。
- (2) 降水量は、1月～3月にかけて平年を下回りました。

(アメダス菊川牧之原)

時 期	平均気温 (°C)		降水量 (mm)	
	本 年	平年差	本 年	平年差
1 月	5.2	+0.5	38.0	▲33.3
2 月	4.1	▲1.4	24.0	▲72.3
3 月	10.2	+1.5	134.0	▲42.5

2 生育状況

- (1) 2月の気温が平年を下回ったものの、3月の気温が平年を上回ったことから、前年・平年より早い状態です。
- (2) 静岡県茶業研究センター作況園における一番茶萌芽期は4月1日で、前年より4日早く、平年より2日早くなりました。
- (3) 生育は全体的に良好で、安定した品質・生産量が期待されます。

静岡県茶業研究センター作況園（やぶきた）における萌芽期の推移

項目	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7	*平年
萌芽期	4/1	4/8	4/5	3/28	4/3	3/31	4/5	4/1	4/3

*直近7か年のうち、最も遅い年（H31）と最も早い年（R3）を除いた平均値

3 流通状況

- (1) 農林水産省果樹・茶グループによる茶の卸・小売事業者に対する令和6年12月末時点の荒茶在庫量及び令和7年産の荒茶仕入れ見込み調査結果によると、海外を中心に需要の高まっている抹茶の原料となるてん茶の引き合いは強いものの、普通煎茶を主体とする一番茶の荒茶仕入れ見込量は「前年と同程度」が5割、前年より「増加」が2割弱、「減少」が4割弱でした。
- (2) 輸出向け荒茶（特に有機てん茶）は不足していることから、各地でてん茶生産を拡大する動きが見られます。
- (3) 鹿児島県ではてん茶生産が急速に拡大しており、例年生産されているかぶせ茶は碾茶への移行が想定されます。県外から本県に入荷するかぶせ茶は減少する可能性が高いことから、かぶせ茶の引き合いは強まる見込みです。

4 取引状況

- (1) 種子島産一番茶の静岡市中、(株)静岡茶市場への初入荷は、3月31日（前年3月21日）でした。
- (2) (株)静岡茶市場の新茶初取引は4月18日（前年4月12日）に開催されます。鹿児島茶市場の新茶初取引は4月9日（前年4月4日）です。

以 上